２０２３日産労連ＮＰＯセンター「ゆうらいふ２１」『第４７回クリスマスチャリティー公演』にご招待いただきました

１２月４日（月）に泉ヶ丘のビッグ・アイで開催された２０２３日産労連ＮＰＯセンター「ゆうらいふ２１」主催の「第４７回クリスマスチャリティー公演」劇団四季のミュージカルに当会の会員３０名がご招待いただきました。

当日の会場は大きなクリスマスツリーやサンタクロースのお出迎えで、一足早いクリスマスの雰囲気に包まれていました。ロビーではボランティアの方々が参加者を会場内へと誘導され、混乱もなく順番に席に着くことができました。感染症対策もされ余裕のある配席で安心して楽しいひと時を過ごすことができました。

このチャリティー公演は、日産労連の組合員さんお一人おひとりが毎月１００円ずつ出し合われた福祉基金を基にＮＰＯセンター「ゆうらいふ２１」を設立され、２００４年から福祉活動の一環として、子どもたちに夢や希望・心の豊かさをプレゼントすることを目的に、劇団四季の皆さんと共に全国で招待公演を開催されています。今年も（今回も含め）全国で１８公演を開催されるとのことです。

今年の演目はミュージカル作家の梶賀千鶴子氏作の「エルコスの祈り」でした。物語の舞台はユートピア学園という社会から問題児と決めつけられた子どもたちを厳しく管理・教育する学校です。夢や希望、笑うことさえ忘れてしまった子どもたちの前に、ある日、心を持った「エルコス」という名のロボットがやって来ます。エルコスは温かい気持ちで、子どもたち一人ひとりの個性を引き出していき、その優しい心に触れた子どもたちは、やがて心を開き、仲間の大切さや人を思いやる素晴らしさを知り、輝きを取り戻していきます。そんな中、一人だけエルコスに反発する悲しい生い立ちの生徒が起こした事件・・・みんなで考えながら解決していきます。ダンスあり、友情あり、涙あり、仲間がぶつかり合いながらも成長していくお話です。

観劇された会員の方から感想を頂きましたので、ご紹介いたします。

「大音響とともに幕が上がると同時にキレッキレのダンスで始まり、鳥肌が立つほどでした。娘もダンスがすごく気に入ったみたいでした。席が前の方だったので、演者の表情などがはっきり見られてすごい迫力で感動しました。劇団四季の皆さん、日産労連ＮＰＯセンター「ゆうらいふ２１」様、ステキな時間をありがとうございました。駅から会場までの出迎えや、見送りもありがとうございました。」（付添いのご家族様より）

「ダンスがとてもカッコよくてきれいだった。私もやってみたいと思った。お話は面白かったけど、けんかのシーンがあったりして悲しかった。女の子が消えてしまうシーンは泣いてしまった。来年もあったら友達を誘っていきたいです。」（澤　奈緒子様より）

【会場は一足早いクリスマスに…/ビッグ・アイにて】

映画『月』を観て

〇月〇日、仕事帰りに京都市内の映画館に立ち寄り、津久井やまゆり園の事件をモチーフに作られた『月』を観ました。これまでもあの凄惨な事件をモチーフにした作品はいくつかありましたが、部分的なプロットに留まっていて、真正面から事件に対峙した作品としては初めてとのことです。

冒頭、宮沢りえさんが暗闇を彷徨うシーン。施設の周囲を描写しているのか、鬱蒼とした森が映し出されます。映画全編を通して、施設での様子はほとんどが夜の出来事。敢えて、見る者に暗いイメージを与えたかったのか？これが世間一般の障がい者施設への嫌悪感を象徴しているのか？やはり職業人としては屈折した見方に支配されます。

監督の石井裕也さんは、この映画が問題作となることを覚悟のうえ、世間に問いたかったそうです。映画のパンフレットによると「経済合理主義が蔓延し、人の価値を経済的価値で量ってしまっているのは犯人だけではないのでは？」という問題提起をしたかったらしいのですが、やや違和感を覚えるところです。すべての人が平等に存在しているのが前提なら、人の価値